

## 乳製品需給等情報交換会議

日時：平成 29 年 5 月 25 日（木）13:30～15:00

場所：（独）農畜産業振興機構 北館 6 階会議室

意見：

（日本乳業協会）

脱脂粉乳については、適正在庫量を消費の 2.5 倍としているが、固定せず需給状況を踏まえ、臨機応変に変えてほしい。家庭用バターについても不足しないように最善を尽くす。

（ホクレン）

北海道の生乳生産について、各種対策を行っているが、台風等の影響でなかなか伸びてこない。当面は、粗飼料の品質確保のための対策を行っていく。

（東宗谷農業協同組合）

J ミルクからの見通しのとおり、後半昨年度からの乳量が伸びてくるのでは。脱脂粉乳 2 万 1 千トンの数字はこれくらい致し方ないと思う。

（中央酪農会議）

都府県についても減産傾向。後継牛対策を行っている酪農家が増えてきている。暑熱対策等も取り組んでいる。

（卸売業者）

バター安定的に推移している。小売用バターは業務用が安定していれば、安定推移すると思う。

（全国菓子工業組合連合会）

バター不足の話はない。今回の脱脂粉乳の追加輸入については感謝する。今後とも市場の状況を十分みて必要に応じて追加輸入してほしい。

（J ミルク）

生乳生産を回復するため、3 年間の緊急事業をスタート。乳牛を輸入して提供する等、様々な生乳増産対策を行っている。増産が目に見える形になるよう努力したい。

（全国消費者団体連絡会）

バター不足を経験したが、最近はそのようなことはなくなった。バターの価格についてはまだまだ高い。安くなってほしい。